



誰でも自然に使えるi+hubで
心地よくエコな会議ができるように

企業名 ジェット・テクノロジーズ株式会社
業種 システム構築、アプリケーション設計・開発
利用シーン 社内外会議
企業概要 金融系を中心としたお客様のシステム基盤の構築および、流通製造業向けを中心としたアプリケーションの開発を行う。2024年4月より、顧客拡大とさらなる成長のためクレスコグループ入りした。



システムソリューション本部
岩渕様

代表取締役社長
星野様

システム基盤構築からアプリケーション開発まで
プロジェクト全体を広範囲に手掛けるジェット・テクノロジーズ様。
開発会社として、新しい技術を積極的に取り入れることを強みに事業を展開。
今回は代表取締役社長 星野様、システムソリューション本部の基盤4課 岩渕様にお話を伺いました。



導入前の課題

- » プロジェクタや小型のモニタの接続など会議準備に時間を要していた。
インタラクティブホワイトボードの存在は知っていたが、反応が遅く使い勝手が良いイメージではなかった。



導入後の変化

- » 会議が行いやすくなり、会議が少し楽しくできるようになった。
- » 景観を損ねないデザインのため、スマートな雰囲気の会議室になった。
- » BYOM機能を使用することで会議室の雰囲気が伝わり、参加者の注目をより集めやすくなった。



i+hub導入のきっかけ

イグアス:i+hubの導入経緯を教えてください。

岩渕様:従来の会議では、定員10名の会議室にPCを持ち寄って23インチのモニタに接続し、みんなで画面の前に寄り集まって見ていました。別途、手書きでホワイトボードを使う機会も多かったです。プロジェクタを使用することもありましたが、照明を落とすなど大人数での会議の前の準備が色々と煩雑でした。また、グループ会社の役員の方が来社する際などにこういった製品が社内にあると印象がいいなと思っていました。

星野様：以前からこのような製品があったことは知っていましたが、実際に使用したこともありましたが、反応や立ち上がりが遅く、まだ製品として使い勝手があまりよくない印象でした。川崎のショールームで実機を見学した際、反応の遅れを感じず、書き味の良さ、また画面に映った文字も明確に見えて、使いづらさを感じなく、これがi+hub導入の決め手となりました。

会議は仕事そのもの

イグアス：i+hub導入前・後に変化はありましたか？

岩淵様：景観を損ねないデザインなので、まるでずっと前からそこにあったかのような雰囲気です。会議室がスマートな印象になりました。“少し会議が楽しくできるようになった・・・”と言ったら変かもしれませんが、会議がやりやすくなり、心地よさが生まれた気がします。

星野様：会議ってすごく大切です。そこで意見を出し合ったり決定したりしていくので、仕事そのものだと思っています。

何かを発表したりみんなでプロジェクトの状況を確認して吟味したりするには、各自PCに向かって意見するよりもi+hubを囲んで会議するほうが合っていると感じます。実際に新人の成果発表会やプロジェクトごとのプレゼンなど、仕事柄前に立って発表することが多いですし、発表者の方向を見ているほうが聞いている側もより集中すると思います。社内でもi+hubの浸透度は高く、みんなで触っているうちに自然と使えるようになる点はポイントとして高いと思います。



アイスブレイクを制する者は仕事を制す？

イグアス：貴社での活用方法や、今後の活用アイデアについて教えてください。

岩淵様：BYOM機能を使用して、一人で参加する会議でもi+hubのカメラで会議室全体の様子を映しています。実は以前からWeb会議で、PCに外付けのカメラを接続して参加していました。みんなPCの画面に顔だけを映して喋っているの、被写体として自分自身の全体像を投影することで注目を集めやすく、会議でもイニシアティブがとりやすくなります。そのため、i+hubを使うときは、現在も前に立ってカメラの方を向いて喋るようにしています。

星野様：採用面接や説明会を始める前の待ち時間には、緊張を和らげる目的も含めて、応募者にアイスブレイクアプリで遊んでもらっています。

岩淵様：誰もいないときにアイスブレイクアプリをプレイしている社員もいます。仕事ができる人は意外とアイスブレイクのスコアも高かったりします（笑）。現在は一人でプレイするアプリですが、アイスホッケーのような対戦や、誰かと一緒にプレイできると、より盛り上がるんじゃないかと思います。また製造業などではIBM iを使用して企業も多いので、インターフェースをi+hubの大画面で見せるなどの使い方もあると思います。他にもWindowsとの連携など、便利な活用法はさらにいろいろ考えられるのではないのでしょうか。

星野様：今後i+hubの導入が増えていくにつれて、グループ内でもこういうもの（新しい機材）を最初に入れる会社だよというアピールにもなりますので、さらにi+hubの展開が広がっていくことを期待しています。

イグアス：実際に活用されているからこそその利用法や新しいアイデアが次々と飛び出し、たいへん興味深いお話でした。本日はありがとうございました。



株式会社イグアス

ビジネス開発本部
戦略システム開発部

 ihub@i-guazu.co.jp

 <https://www.i-guazu.co.jp/lp/ihub>